

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	名古屋大学	整理番号	F05
プログラム名称	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム		
プログラム責任者	石井 三記	プログラムコーディネーター	松浦 好治

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、もともと名古屋大学には複数の発展途上国への法整備支援の実績があることから、本プログラムはオンリーワン型に相応しいものと大いに期待されたところであり、これらの実績を活用したプログラムの基本となる共同研究の実施、学生主導のセミナーや国際会議の開催、他大学や海外機関との連携体制や海外でのインターンシップの機会等を、ほとんどの学生がプログラムの長所と位置付け、有効であると満足している。また、留学生が多いこともあって、英語による講義やコミュニケーションが常態であり、グローバルな教育研究・生活環境が構築されたものと評価できる。さらに、個人研究が通常の法科系にあって、実務に配慮した新規な学位プログラムであり、グローバルリーダー養成の十分有効な体制が構築されたものと評価できる。これらから、入学者数が計画を下回る結果となったものの、総体的には当初期待された成果が得られたと評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、就職先の実績が海外の国際法律事務所、海外支援組織、外国政府職員、企業と多様で明らかに従来型の就職先とは異なったものであり、本プログラムの有効性が確認できる。また、海外機関との連携や海外でのインターンシップを通じた人的ネットワークの形成に成功した学生も多く、修了者の今後の成長が期待されることから評価できる。一方で、日本人の充足率が低くモデルケース的なキャリアパスが未だ明確には提示されていない点は今後一層の努力が求められるが、名古屋大学が持つグローバルネットワークの恩恵を享受しつつ、その更なる蓄積に貢献する役割を担うものと十分期待できる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後のプログラム学生の扱いも含め、後継体制「博士課程教育推進機構」による、名古屋大学の他の博士課程教育リーディングプログラムとの一体運営の下で再編されるようであり、発展的な運営が行われるものと評価できる。ただし、支援期間終了後も個々のプログラムの理念を継続して発展させることが適切であるが、実効性や継続性の面から、プログラムごとの外部資金獲得に期待するばかりではなく、大学全体として基金や仕組みを制度化するなど、持続可能なものとするのが望まれる。